

アウシュヴィッツからのメッセージ

ドイツ・スインティ・ロマ中央委員会議長

ロマニ・ローゼ

2013年8月2日

ナチス体制のもと虐殺された 50 万人に及ぶスインティとロマの追悼集会を、世界人権宣言の実現を求める広島実行委員会および反差別国際運動の皆さまが、広島で開催して下さることに、ドイツ・スインティ・ロマ中央委員会を代表してお礼を申し上げます。ヨーロッパのマイノリティであるロマのコミュニティにとって、ますます高まりつつあるロマへの差別に立ち向かうには、IMADR に集まる世界の他のマイノリティ・コミュニティとの連帯が最も重要です。ロマ追悼のためにこうして国際的な関心が向けられることは、ヨーロッパにおいて私たちがそれぞれの国の政府に圧力をかける上で非常に強力な後ろ盾となります。

皆様への連帯の印として、8月2日にアウシュヴィッツ・ビルケナウの“ジプシー・キャンプ”で開催する追悼式での私の挨拶文をここに共有させていただきます。

~~~~~

最初に、本日ここにお集まりいただきましたナチス強制・絶滅収容所の生存者の皆様に歓迎のご挨拶を申し上げます。ナチスにより極限まで追い込まれたこの場所に、そして無惨に殺されていった多くの仲間の嘆きを目の当たりにされたこの場所に、お集まりいただくことは非常に重い決断であったとお察しいたします。毎年、私たちはここに集まり、アウシュヴィッツ・ビルケナウおよびその他の強制・絶滅収容所で言い表わすことのできない恐怖を体験したのち、命を奪われていった無数のロマの犠牲者を追悼しています。

長年にわたり私たちと共にこの追悼の集いを開催してきていただいたポーランド政府に厚くお礼を申し上げます。また、本年も多数の国の代表の方々にご参列をいただきましたことに、心よりお礼を申し上げます。

さらには、アウシュヴィッツ・ホロコースト博物館の館長チウンスキ氏と、毎年この集いを準備してくださっているポーランド・ロマ同盟委員長のクウィアツコフスキ氏にお礼を申し上げます。

ヨーロッパの多くの国から集まった若い世代のロマ代表を歓迎いたします。スインティとロマに対するホロコーストは痛ましい過去の出来事であるだけでなく、マイノリティである私たちに実際に起きたこととして、私たちロマの意識の中に存在し続けなくてはなりません。これは、50 万人以上に及ぶ犠牲者に対する私たちの義務であります。

現在、ヨーロッパ全土では、極右とは直接関係のない政治家までもが、公の場において、ロマに対する侮蔑や脅迫めいた発言を加速化させています。ヨーロッパでは、長年、多くの

国において、人種主義的動機によるマイノリティの殺害や攻撃が繰り返されてきました。ヨーロッパでは反ユダヤ主義そして反ロマ主義は依然として猛威を奮っており、それは、マイノリティにとって危険だけでなく、ヨーロッパ社会そしてヨーロッパ文化の存続にとって危険でもあります。

公然と姿を見せる人種主義との闘いにおいて、私たちは極右に対して文化的および思想的に対抗しなくてはなりません。そのためにも、私たちは過去を忘れてはならず、あらゆる形態の人種主義を絶えず観察していかなくてはなりません。ヨーロッパの多くの国において、反ユダヤ主義は違法であり、社会的犯罪であります。その一方、反ロマ主義は依然として受容されており、社会において有効に機能しています。

ヨーロッパのすべての民主的政党はマイノリティの保護に積極的に乗り出さなくてはならず、極右の言説をとり入れて過ちを繰り返すようなことをしてはなりません。

50万人に及ぶシンティとロマのホロコーストはヨーロッパの歴史の一部であります。ヨーロッパ連合は人類に対するこの犯罪をヨーロッパ人の意識に刻み、全加盟国において反ロマ主義を反ユダヤ主義と同様に非合法化しなくてはなりません。

民主主義的価値と人権思想を若者の間に育まなくてはなりません。その意味においても、アウシュヴィッツを記憶に残すことは非常に重要です。

来年、ここアウシュヴィッツ・ビルケナウ BIIe 区域の“ジプシー・キャンプ”に収容されていたシンティ・ロマの粛清は 70 年目を迎えます。来年も、この場において、若い世代の積極的な参加を望まずにはられません。なぜなら、マイノリティである私たちは、私たちのこの社会的責任を他の誰にも託すことはできませんし、私たち自身が私たちの責任としてやり遂げなくてはならないからです。

